

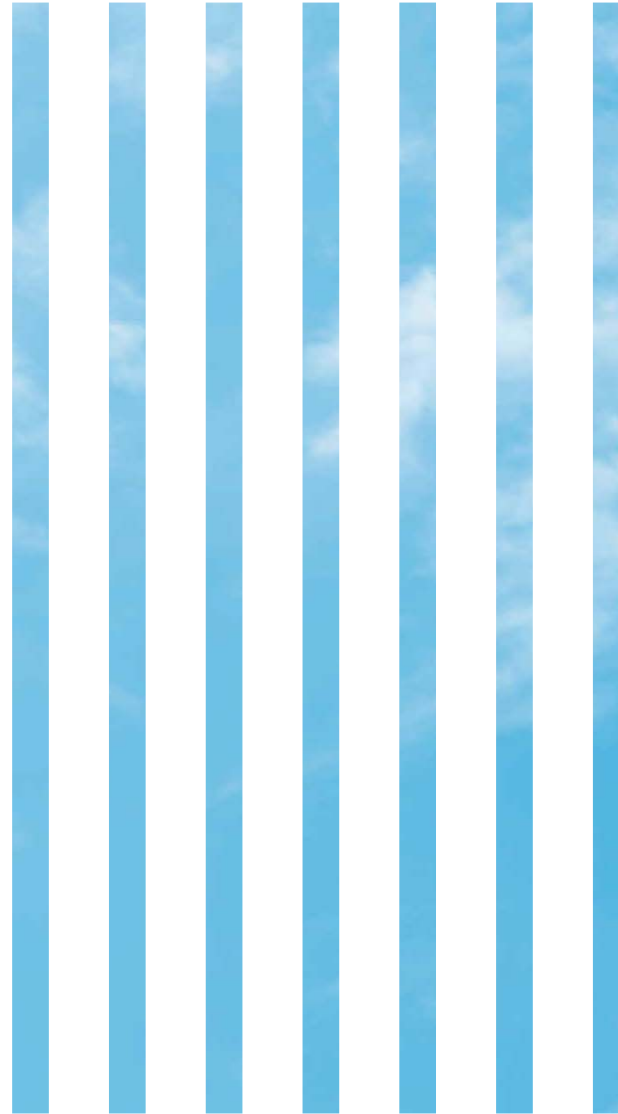


YOKOHAMA
CITY
HALL

横浜市役所



横浜市中区本町6丁目50番地10
みなとみらい線馬車道駅直結
JR・地下鉄桜木町駅下車徒歩3分



YOKOHAMA
CITY
HALL

横浜市役所

YOKOHAMA CITY HALL

市庁舎の特徴

的確な情報や行政サービスを提供し、豊かな市民力を活かす開かれた市庁舎

Upper Floors 高層部(市役所機能) ……8

財政負担の軽減や将来の変化への柔軟な対応を図り、長期間有効に使い続けられる市庁舎

Middle Floors 中層部(議会機能) ……10

市民に永く愛され、国際都市横浜にふさわしい、ホスピタリティあふれる市庁舎

Lower Levels 低層部 ……12

ユニバーサルデザイン ……15

環境に最大限配慮した低炭素型の市庁舎

環境負荷の低減 ……16

様々な危機に対処できる、危機管理の中心的役割を果たす市庁舎

BCP対策 ……17

※新市庁舎整備の基本理念より





Floor composition

フロア構成

市庁舎は、高層・中層・低層の3層構成となっています。高層部には市役所機能、中層部に3層吹き抜けの議場を含む議会機能を配置しています。低層部は十分な天井高を確保した開放的な空間とし、多様な活動、賑わいを創出するアトリウムや市民利用施設、商業施設を配置し、市民に開かれた市庁舎としています。

32階 電気・機械室

Upper Floors

周囲の街並みと調和するように、白を基調とした外観

高層部（市役所機能）

8階～31階

Middle Floors

二元代表制を象徴するよう議会部分を独立させた、視認性の高いデザイン

中層部（議会機能）

3～8階（4階：電気・機械室）

Lower Levels

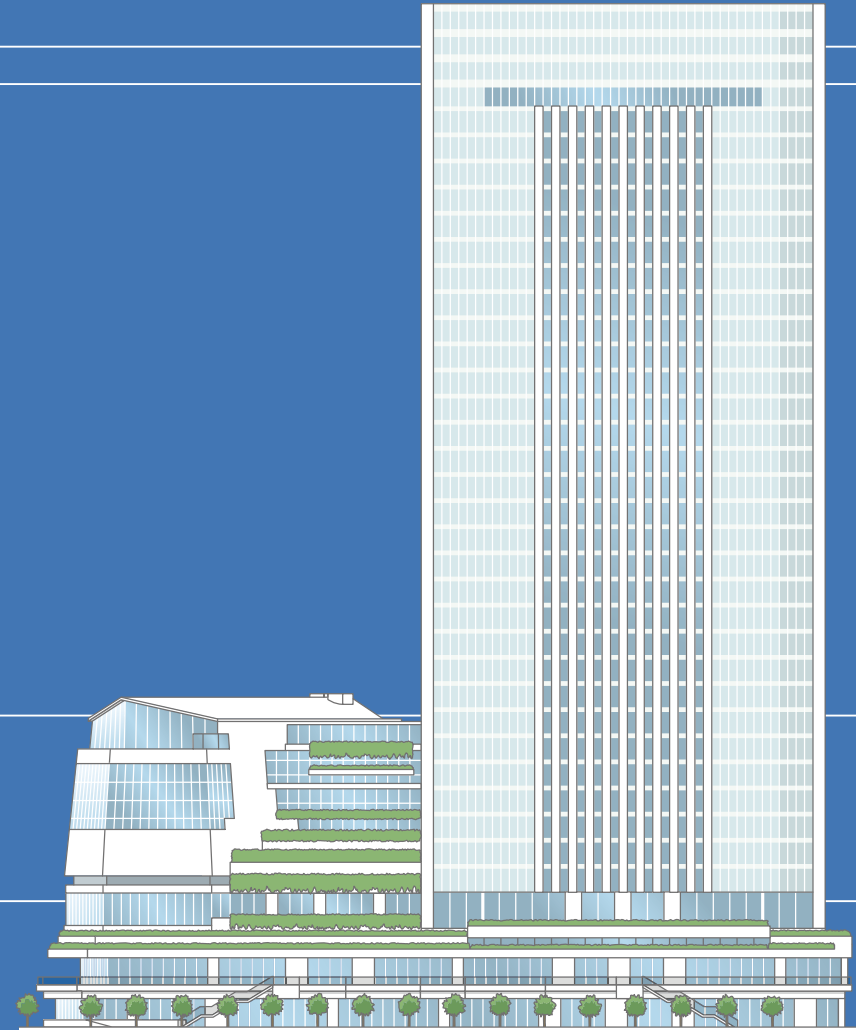
人々を迎え入れる「街」のような空間

低層部（市民利用機能・商業施設）

1～3階

地下1階 一般駐車場

地下2階 業務用駐車場



Upper Floors

高層部（市役所機能）
8階～31階

来庁者対応の充実、経済性と効率性の向上 コミュニケーションの活性化

旧庁舎や民間ビルなど約20か所に分散していた部局を集約することで、来庁者の利便性と業務の効率性を高めます。来庁者対応スペースと職員の執務スペースを区分し、来庁者対応スペースを十分確保するとともに、執務室では職員間・組織間のコミュニケーションを活性化させ全庁的な組織力を向上させるレイアウトを採用しています。



フロア受付

当該フロアに配置された組織の一覧や業務案内をわかりやすく表示するとともに、当該部局の職員を呼び出すための電話を設置します。



窓口カウンター

頻繁に来庁者が訪れる部門には、執務室内に窓口カウンターを設け、随時、職員が応接対応します。エレベーターホールから窓口カウンターまで、わかりやすい案内表示を設置します。窓口カウンター以外にも間仕切りで仕切られた応接・相談ブースや待合スペースなど業務特性に応じた場所を設けます。



応接・相談ブース

エレベーターホールから近く、外光が入る明るい空間に来庁者を迎える応接・相談ブースを設置しています。それぞれのブースはプライバシーに配慮して間仕切りで仕切られています。



オープンフロア・ユニバーサルレイアウト

執務室は壁や間仕切りを設けず、開放的で視認性が高く、フロア全体で一体感のあるオープンフロアとしています。フロア全体でユニバーサルレイアウトを導入しています。具体的には、デスク等の什器の規格・デザインを共通化し規則的に配置することで、スペースを有効活用しています。また、人員の増減にも柔軟な運用が可能です。



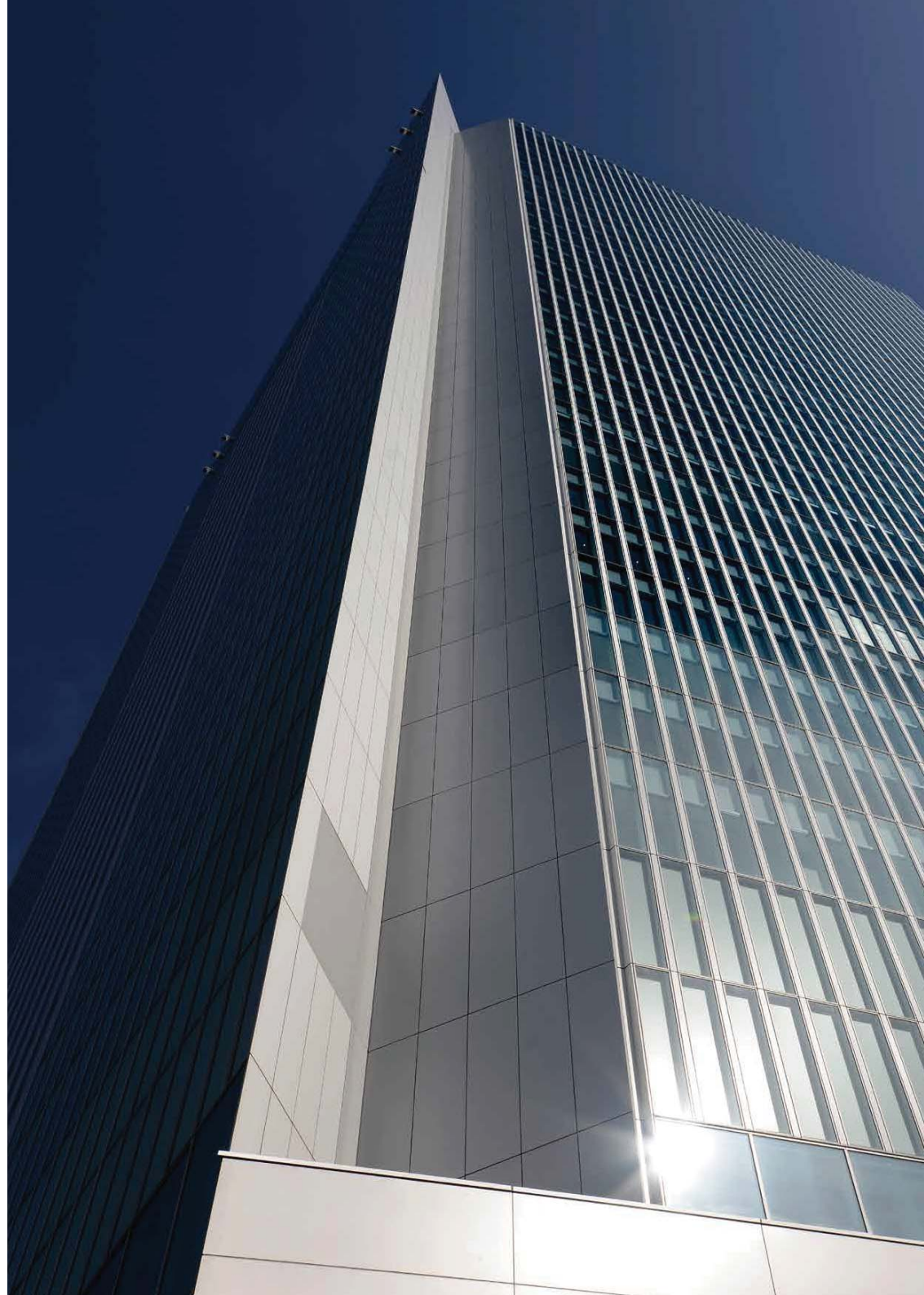
コミュニケーションエリア

職員間の自然な交流を生み出し、コミュニケーションを活性化するため、複合機や事務用品、庁内メールボックス、ミーティングスペースなど、フロア全体の職員が共通で利用する機能・備品を集約配置しています。



共用会議室フロア

すべてのエレベーターが停止する18階を共用会議室フロアとし、約50室の大小会議室を集約して配置しています。プロジェクターを常設し、無線LANにより庁内ネットワークに接続することでペーパーレスを促進します。また、他のフロアにもスペースや利用目的に応じた共用会議室を配置しています。



Middle Floors

中層部（議会機能）
3～8階（4階：電気・機械室）

伝統ある横浜市会の雰囲気を継承しつつ、 市民に開かれた議会を実現

旧庁舎は、行政部分と議会部分を明確に分離配置し、二元代表制を表現していました。そのため、新庁舎においても、三層吹抜けの本会議場等を高層部から分けて配置し、船をイメージした特徴的な外観としています。
市会PRコーナーの新設や市会図書室、傍聴席の拡充等で、より市民に開かれた議会を実現します。



本会議場

本会議場は、各座席配置や白い天井、木の壁など旧議場の雰囲気を残しつつ、床は海、波をモチーフに青を基調とし、横浜らしさを表現しています。



傍聴席

本会議場の傍聴席は旧議場より100席多い216席とし、誰もが安心して傍聴することができるよう親子傍聴室も新設しました。また、全ての委員会室に傍聴席を新設し、開かれた議会を実現します。



鳩とオリーブのレリーフ

旧議場の天井には、平和の象徴である「鳩」と「オリーブの枝」が描かれていたことから、ホワイエの天井に1/2に縮小したレリーフを復元し、旧庁舎の雰囲気と伝統を継承しています。

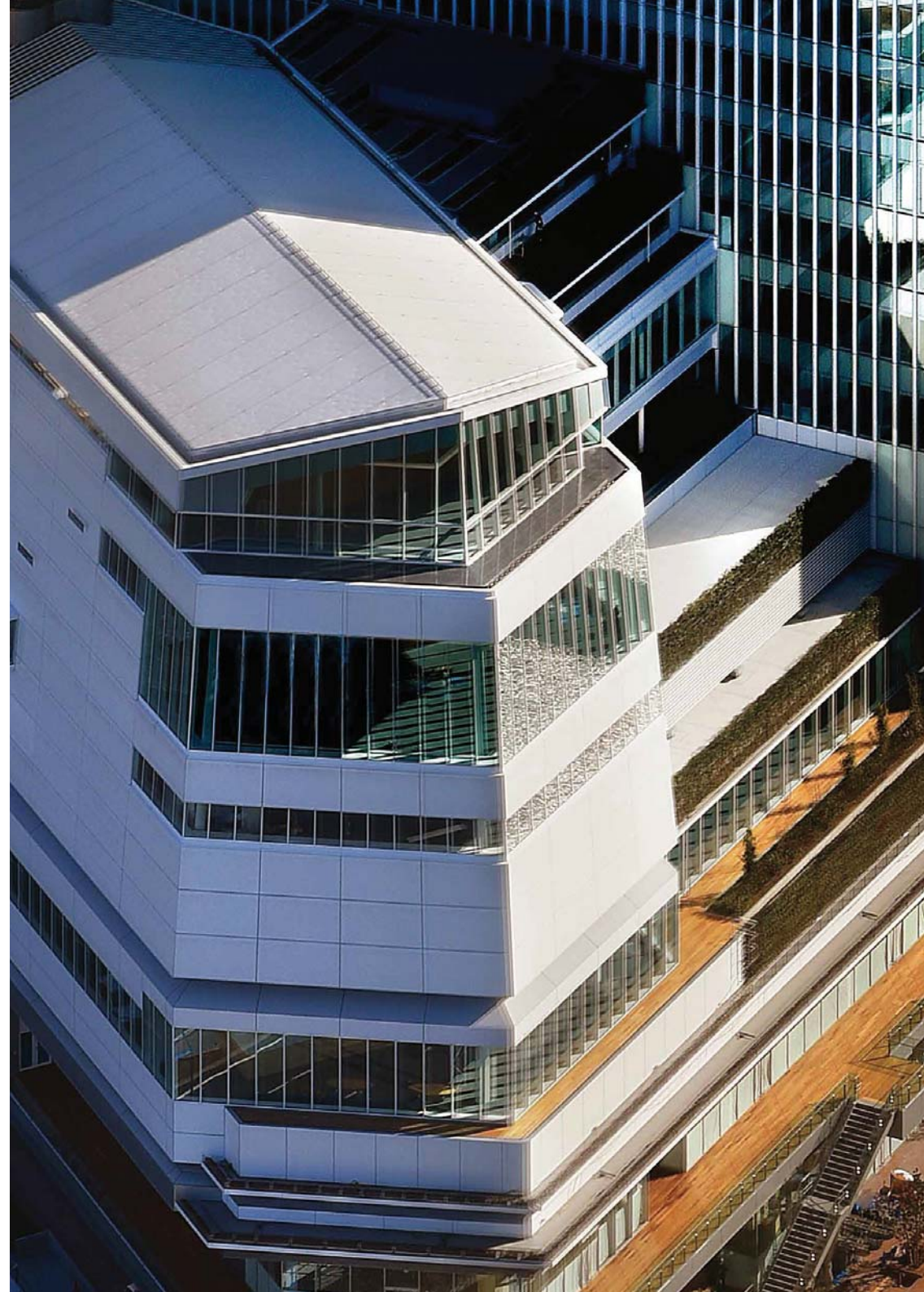


市会PRコーナー・市会図書室

市会PRコーナーは、市会をより身近に感じていただけるよう、エントランスホールに配置し、市会に関するコンテンツを発信、提供します。市会図書室もエントランスの直近に配置し、市民の方にも図書等を閲覧していただくことができます。

電気・機械室

主な機械室は、免震層上部かつ津波等による浸水リスクを回避した4階に配置しました。



Lower Levels

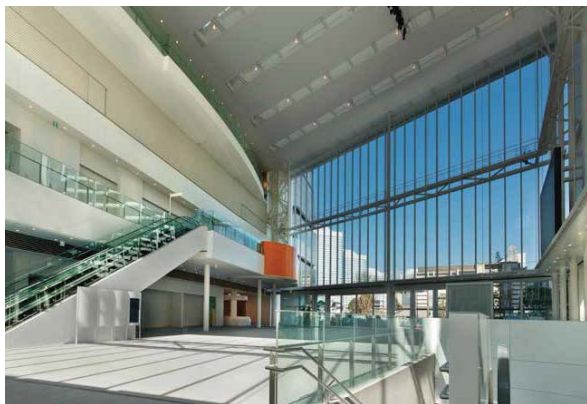
低層部（市民利用機能・商業施設）
1～3階

まちの賑わいと活力の創出

国際都市横浜にふさわしいホスピタリティあふれる空間

関内・関外地区とみなとみらい21地区の結節点に位置する横浜市役所を象徴するアトリウムは、みなとみらい線馬車道駅と直結し、誰もが気軽に集い、親しみ、憩えるスペースとして、様々なイベントやセレモニーの場として活用できます。

1～3階には、フードホールやブック&カフェ、コンビニ、保育所や金融機関なども出店することで、都心臨海部にホスピタリティあふれる新たな賑わいスポットが誕生します。



アトリウム



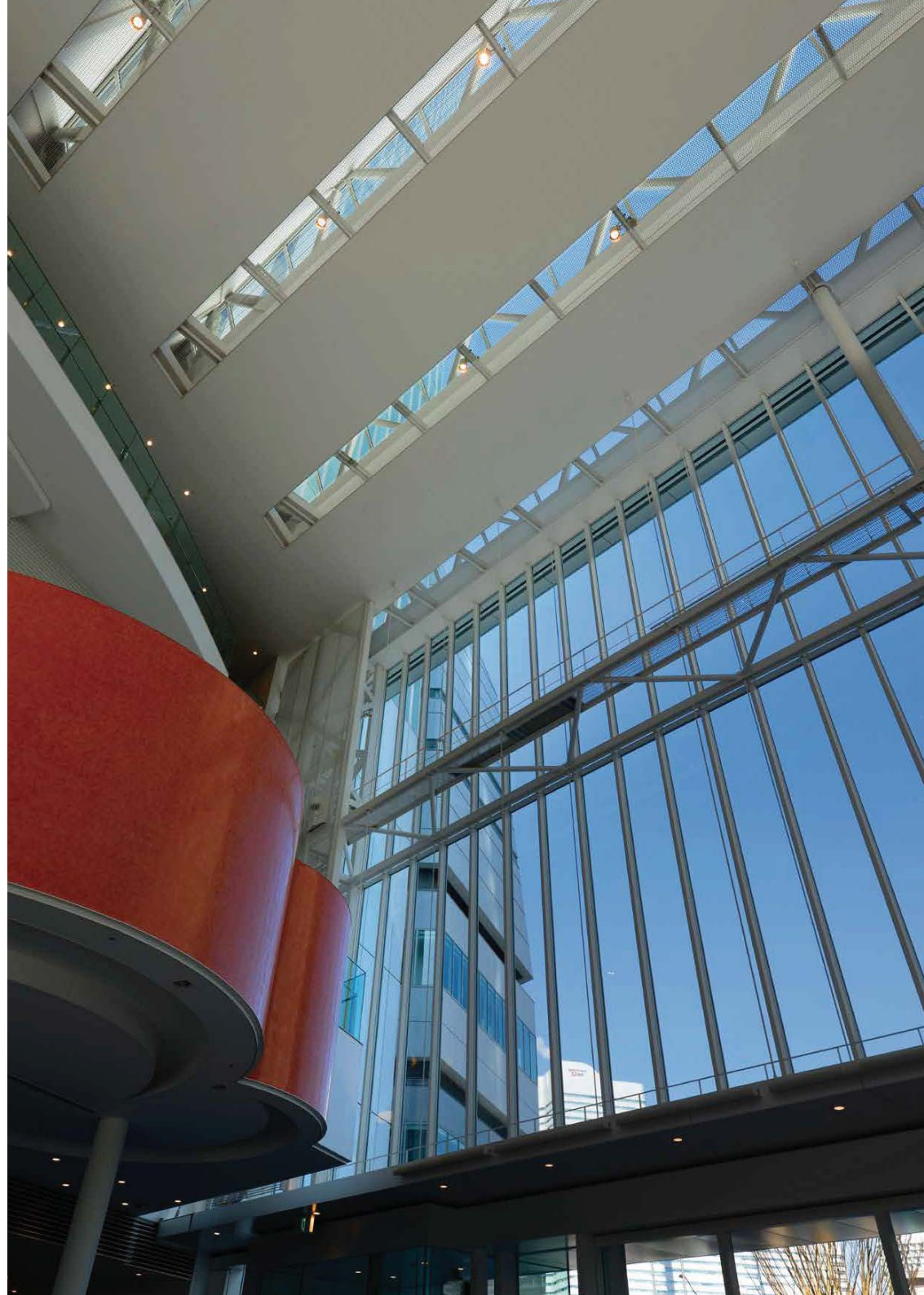
フードホール（イメージ）



北プラザ



大岡川沿いのプロムナード



Lower Levels

低層部（市民利用機能）
1～3階

的確な情報・行政サービスの提供 横浜らしさを感じられる開かれた空間



受付・インフォメーション

3階市役所ロビーには、お客様に入館証を交付するとともに、行政サービスや窓口をご案内する受付を設置しています。複雑多岐に渡る業務・組織の中から、お客様の訪問先を的確にご案内することで、スムーズな入館を実現します。また、1階には建物全体の情報などを提供するインフォメーションを配置しています。



情報提供・相談機能等

行政資料等の閲覧・配布や開示請求手続きの窓口として利用される市民情報センターは、閲覧スペース等を拡充した上で、3階の入館手続きの不要なエリアに配置しています。同じく3階に配置される市民相談室は、相談ブースを拡充するとともに専用の待合スペースを確保して、プライバシーにも配慮した空間としています。



市民協働推進センター

市民協働推進センターは、賑わいの中心となるアトリウムや商業施設などと同じ1階に配置し、水辺テラス等に面した開放的な空間とします。協働による課題解決の提案や相談を受けるとともに、実現に向けたコーディネートや情報発信を行い、様々な主体の交流・連携が生まれる対話と創造の場とします。



プレゼンテーションスペース

国内外から市庁舎を訪れる方々に、大型のプロジェクターやタッチパネル式モニターにより、横浜の歴史・文化・発展などの魅力を伝え、横浜らしさを体験していただけるプレゼンテーションスペースを2階に設置しています。



市民ラウンジ

3階ロビーからアクセスできる大岡川沿いの一面にみなとみらい21地区の展望をゆっくり楽しめる市民ラウンジを配置します。待ち合せやくつろぎの場としてどなたでもご利用いただけます。

ユニバーサルデザイン

多様な人々が集い、憩える「おもてなし」の空間

誰もがスムーズに建物内外を移動でき、安心・安全・快適に施設や機能を利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮しました。通路は極力、段差を排した設計とし、公共交通機関からの接続部には視覚障害者用誘導ブロックを設置するとともに、エレベーターには手すりや鏡（車いす使用者に対応）、低位置の操作ボタンなどを設置しています。



サイン・サイネージ

主要な出入口付近や1階のインフォメーション、3階の市役所受付や議会受付までの動線上に、建物内をわかりやすく案内する誘導サインを設置します。主な誘導サインは5言語（日本語、英語、中国語、韓国語及びフランス語）に対応するとともにタッチパネル式デジタルサイネージではさらに多くの言語に対応します。



ベビー休憩室・授乳室

1階におむつ交換台と授乳用のいす、調乳用温水器や温水の出るシンクを備えたベビー休憩室を配置します。3階と7階（議会機能）には、吊カーテンや扉等で内部が仕切られ、親子だけで安心して授乳ができる授乳室を設置します。



ユニバーサルトイレ

車いす使用者、乳幼児連れの方、オストメイトなど、状況に応じてご利用いただけるトイレを、各フロアに配置しています。



ヒアリンググループ補聴システム

難聴者等の聞こえを支援するため、コイル内蔵の補聴器により音声の聴取を支援するヒアリンググループを、アトリウムをはじめ市役所共用会議室（一部）や市会本会議場や委員会室の傍聴席などに設置しています。



ふれあいショップ

市役所の受付フロアの3階に、障害のある方が働くカフェを設置し、軽食や飲み物の提供、障害者施設の商品の販売を行います。ショップの運営を通じて、様々な「働く形」を発信します。

自然エネルギーを最大限利用する低炭素型市庁舎

高い断熱性能を有する外壁や、輻射効果による空調システム、水素を利用する燃料電池など高効率な機器やシステムによりエネルギー消費の少ない市庁舎になります。地中熱を利用した空調、太陽光発電、高層部では窓際に設けた換気専用パネルから涼しい自然の外気を取り込むなど自然エネルギーを最大限に活用します。

また、隣接する横浜アイランドタワーと一体となって地域冷暖房によるエネルギーの面的利用を進め、熱の有効利用による省エネルギー、地区のBCP強化を実現します。



燃料電池

発電効率に優れる固体酸化物型燃料電池(SOFC)を導入し、市庁舎で消費される電力の一部(約200kW)を賄います。停電時でもガスが供給されていれば発電が可能。そのため災害対応としての効果もあります。



太陽光発電

屋上の一部を有効活用し、太陽光パネルを設置して、市庁舎で消費される電力の一部(約100kW)を賄います。蓄電池と組み合わせることで非常時の電源としても利用可能です。



地中熱利用

地中の温度は1年を通じて安定しており外気温と比べて夏季は低く、冬季は高くなります。この性質を利用して地中杭に敷設した配管に水を循環させ、夏季には水を冷却し冬季には温めることで、アトリウムなどの冷暖房に活用します。



輻射空調

執務室の天井材の裏に細い配管を張り巡らせた「輻射パネル」に冷水・温水を流し、天井輻射パネル自体を冷やしたり温めることにより「輻射熱」で空調するシステムです。気流が少なく快適で省エネルギー性能に優れています。



自然換気

超高層建築物では珍しく、高層部の窓際に設けた換気パネルを開けることで、外気を取り入れることが可能です。建物内部を縦に貫き吹き抜け空間(エコボイド)との相乗効果で自然換気を行い、エネルギー負荷を低減します。



BELS (建築物省エネルギー性能表示制度)
☆☆☆☆(ファイブスター：最高ランク)



CASBEE 横浜 (横浜市建築物環境配慮制度)
Sランク

様々な危機に対処できる危機管理の中心的な役割を果たす市庁舎

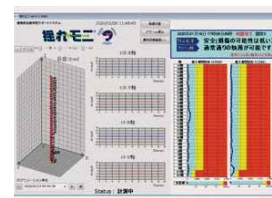
地震による揺れを低減する免震装置に加え制振装置も配置したハイブリッド免震を採用することにより、万一、大規模地震が発生した際にも高い耐震性と安全性を確保しています。

主要な設備機器は浸水のおそれのない高さ(4階)に配置するとともに、7日間連続運転が可能な非常用発電機と飲料水・トイレ洗浄水を確保することで、災害時にも市役所機能を維持し、業務を継続できます。



災害対策本部機能

10階に市民生活の安全・安心を守り、災害等が発生した際には横浜市の対策本部として情報の収集・集約、対策の立案を的確に行う危機管理室を配置しています。



地震・構造モニタリングシステム

震度6強から震度7程度の大地震の発生後においても、地震による建物の揺れの程度を自動的に計測、建物の継続使用可否等の迅速な判断が可能な地震・構造モニタリング機構を備えています。



ハイブリッド免震

建物の2階と3階の間に免震装置を設置し、免震層上部の揺れを低減させるとともに、制振装置により地震エネルギーを吸収させることで、執務室での什器転倒などの被害を防ぎ、業務の継続性を確保します。



避難デッキ(浸水対策)

万一、津波が発生した際に、市民・来街者が避難できるよう大岡川沿いの建物2階周縁部に敷地外部からも直接アクセス可能なオープンデッキを設置しています。建物の管理・保全の中核である防災センター(2階)や、主要な設備機器が設置された電気・機械室(4階)は浸水のおそれのない建物上部に配置しています。また、1階の各出入口には防潮板を設置することが可能であり、建物(特に地下階)への浸水を防ぎます。



非常用発電機

電力事業者からの電力供給が途絶した場合でも業務が継続できるよう、大容量の非常用発電機(2,000kVA×2台)を備えています。備蓄燃料で7日間の連続運転が可能です。



ヘリポート

災害時における人命救助や消火活動、物資の輸送なども想定し、大型のヘリコプターも離着陸可能なヘリポート(飛行場外離着場)を建物屋上に設置しています。

建築概要

敷地面積	約13,160㎡
延べ面積	約142,600㎡
建物規模	地下2階 地上32階 塔屋2階
最高高さ	約155m
構造	鉄骨造(柱コンクリート充填鋼管造)等 中間層免震構造+制振構造
基礎	杭基礎(場所打コンクリート拡底杭)+直接基礎
工期	平成28年(2016年)2月 契約 平成29年(2017年)8月 着工 令和 2年(2020年)11月 しゅん工

コンストラクションマネジメント

CMr	山下PMC/山下設計JV ※CMr(コンストラクションマネジャー) 企画・発注・設計・施工等の各段階において 技術的な中立性を保ちつつ発注者の側に立ち、 工程・品質及びコスト管理などを行う者
-----	---

本体工事

発注方式	設計-施工一括方式
設計施工	竹中・西松建設JV
設計監理	株式会社工務店・株式会社総合計画事務所
監理	株式会社NTTファミリーーズ
コンソーシアム	株式会社小俣組・株式会社黒崎工務店・株式会社サカクラ・ 株式会社生駒植木・株式会社アルテック・きんでん・ 株式会社共栄社建設JV・浅海電気株式会社・齋久工業株式会社・ エルゴテック株式会社・新菱冷熱・川本工業建設JV

中層部内部整備工事・特殊設備工事

施工	株式会社NB建設・株式会社小俣組・株式会社志田建設・ 株式会社扶桑・株式会社日宝建設JV・株式会社きんでん・ 株式会社東洋電装・株式会社神電設備工業建設JV・ 株式会社清進・株式会社辰川建設JV・株式会社ニガハヤ建設JV・ 株式会社システムエンジニアリング・株式会社東洋電装・ 株式会社三沢・株式会社興信・株式会社三光建設JV・株式会社エルゴテック・ 株式会社東日本電信電話
----	---

DHC事業

	東京都サービス株式会社(熱源施工)株式会社菱和
--	-------------------------

その他

開庁準備支援	株式会社ココヨマーケティング
移転	株式会社ジェイアル東日本物流
商業マスターリース	株式会社京浜急行電鉄
建物総合管理	株式会社ハリマシステム
アトリウム運営	株式会社シアターワークス